様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ００１９６

研究課題名（和文）染色デザインの世界的連環―「きもの」文化を中心に

研究課題名（英文）Global Entanglement of Dyeing Designs: A Case Study of "Kimono" Culture

研究代表者
鈴木　桂子（Suzuki, Keiko）

立命館大学・文学部・授業担当講師

研究者番号：１０５５１１３７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、従来の「和装」史・京都産業史では見えてこない、グローバルな広がりのある「きもの」文化を考察するため、（1）20紀前半以降、京都からアジア・アフリカに輸出された捺染生地、（2）ハワイでの着物生地のアロハシャツの誕生とそのグローバルな普及、（3）戦後の外国人用お土産として開発されたスカジャンやハッピーコートの日本での定着と若者文化との関係、の3点に焦点を当て、グローバルな連環の中に「きもの」文化を位置づけ、複数地域での調査研究を進めその意味を解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「きもの」文化の研究は、従来そのハイ・カルチャー的な側面に焦点を当てたものが多い。それに対して、本研究は海外へ輸出された捺染生地、観光芸術・土産品としてのスカジャン、ハッピーコート、アロハシャツ等、「きもの」文化に関連した比較的廉価な繊維製品の歴史を補完することで、モノ・技術・デザインのグローバルな循環を総合的に叙述し、それにより、欧米中心的視点では見えてこない世界史を方法論的に提示した。
　本研究を遂行することにより、伝統産業の活性化に不可欠な学術的裏付けと国際的な情報発信を継続的・効果的に推進することができた。結果、海外研究者・研究機関の関心も高まり、国際共同プロジェクトが始まっている。

研究成果の概要（英文）：In order to examine the global expansion of "kimono culture," which can hardly be seen in the conventional history of "kimono" and the history of Kyoto industry, this study focuses on the following three points: (1) printed fabrics exported from Kyoto to Asia and Africa in the early 20th century, (2) the birth and global popularization of aloha shirts made of kimono fabrics in Hawaii, and (3) the sukajan and happy coat, which were developed as souvenirs for foreigners after World War II--their establishment in Japan and their relationship with youth culture.

研究分野：美術史

キーワード：美術史　グローバル・ヒストリー　服飾史　異文化交流　経済史　きもの文化　京都　日本文化史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

報告者は、それまでデジタル・アーカイブの手法を用い、学術資料として俎上に上がっていない近代染織史に関連する資料の整理・蓄積を進め、それによって、伝統的地場産業と位置付けられてきた京都の染織のグローバルな展開―近代以降の西洋技術・デザインの導入だけではなく、戦前から始まるアジア・アフリカへの製品輸出・海外事業展開も含む―が明らかになってきた。研究課題の新しい段階として、近代京都を起点として染色産業がどのように国内外へ展開されてきたのか、あるいは影響を受けてきたのかを染色技術やデザインを通じて明らかにする必要性を確認した。研究の具体例としては、京都の近代染織製品、「アフリカン・プリント」、伊勢型紙、バティック等を取り上げ、デザイン・染色技術の世界的連環を解明することを企図した。

２．研究の目的

本研究は、以下の二つを主な目的とし遂行した。

(1) 比較的廉価な繊維製品の歴史を補完することで、モノ・技術・デザインのグローバルな循環を総合的に描き出す方法論の提示

本研究では、近・現代の既存の繊維製品の歴史・文化史的叙述における、①輸出品・観光芸術・土産品の基礎的な研究の欠如・各研究の分断、②近代史と現代史の分断、③産業史、経済史、文化史の分断、④アフリカ、ヨーロッパ、桐生、京都、沖縄、ハワイといった研究対象地域の分断、⑤洋服と「きもの」の分断、という問題を克服し、モノ・技術・デザインのグローバルな循環を総合的に叙述することにより、欧米中心的視点では見えてこない世界史を方法論的に提示することを目指した。

（2）伝統産業活性化に不可欠な学術的裏付けと国際的情報発信

桐生、京都の着物関連産業は斜陽の状態が続いており、早急に調査を進めないと重要な資料・情報が永久に散逸する危険性がある。これに対し報告者は平成 21 年度より「きもの」文化の国際化という視点より研究を進め、情報技術を駆使し、蓄積した資料・情報の共有化・社会還元を進め、伝統産業の学術的裏付けをすることで、作品・商品の付加価値を高め、それにより業界の活性化に努め、実際的な効果も出てきた。またこれまでの数々の国際シンポジウム開催・英文論文発表により、すでに国内外の研究者とは様々な学術ネットワークで繋がっており、伝統産業への国際的な学術的関心も高まりを見せ、情報発信がより効果的にできる時期になってきた。本研究を遂行することにより、伝統産業の活性化に不可欠な学術的裏付けと国際的な情報発信をさらに継続的・効果的に推進でき、それによりより広い社会への波及効果、即ち伝統産業の活性化の更なる促進を目指した。

３．研究の方法

本研究は、以下の三つの歴史的・地理的に重複し、関連する具体的なテーマを設定し、総合的に研究を遂行した。

（1）20 世紀前半以降、京都からアジア・アフリカに輸出された捺染生地

（2）ハワイでの着物生地のアロハシャツの誕生とそのグローバルな普及

（3）外国人用お土産としてのスカジャンやハッピーコートの日本での定着と若者文化

これらの点を解明するため、繊維製品のトランス・ローカルな移動を、実際に生産から、海を渡り消費されるまでを追跡し、様々に関わった社会的当事者に聞き取り調査をし、その意味づけと変容について考察する研究方法を採った。さらにそれを文献調査で学術的に裏付けていった。

４．研究成果

本研究は、従来の「和装」史・京都産業史では見えてこない、グローバルな広がりのある「きもの」文化を考察するため以下の 3 つの具体的なテーマに焦点を当て、グローバルな連環の中に「きもの」文化を位置づけ、複数地域での調査研究を進め、その意味を再検討した。

（1）20 紀前半以降、京都からアジア・アフリカに輸出された捺染生地

当該捺染生地の文化的意味を検討するため、近代捺染技術のルーツとして、近世初期にインドから始まった更紗を位置づけ、そのヨーロッパ・アジアの二方向への伝播の流れを追うことにより、輸入された更紗に触発され、各地で更紗を模倣する捺染織物の生産が試みられたことを明らかにした。特に、ジャワ更紗（バティック）、型紙を使った和更紗、それに触発された友禅染、そしてヨーロッパ・日本各地で機械捺染された「アフリカン・プリント」を例として取り上げ、それぞれの地域におけるこれらの生産が、過去 2 世紀の間に互いに絡み合うようになったことも明らかにした。例えば、「アフリカン・プリント」のデザインはもともとバティックに由来していたのであるが、オランダのフリスコ社の「アフリカン・プリント」は、業界最高峰として、日本製「アフリカン・プリント」に多大なる影響を与え続けてきた。しかし、その一方で、フリスコ社の「アフリカン・プリント」は、アフリカの消費者の好むデザインのみならず、日本の型紙をデザイン・インスピレーションとして利用したりしていることが判明した。本研究によって、テキスタイル・デザインの可能性、永続的な影響力、世界規模での絡まり合いを実証できたので、

引き続き、複数地域での研究を提唱していきたい。なお、成果の一部は、2024 年度中に、国際共著論文（フランス語）として公表する予定である。

（2）ハワイでの着物生地のアロハシャツの誕生とそのグローバルな普及

ハワイでの現地調査・アロハシャツ関係業者への聞き取り調査、また、いわき市のスパリゾートハワイアンズ（旧常磐ハワイアンセンター）、「東洋のハワイ」と称された指宿市のアロハシャツにまつわるイベントの実地調査、資料調査もでき、またアジア各地でのアロハシャツの利用状況の情報収集もかなり進めることができた。アロハシャツのハワイでの誕生以降、沖縄を含む日本各地及びアジア各地のリゾート地での、様々な変容を伴う普及と利用の有り様についての論文執筆の準備を進めている。

（3）戦後の外国人用お土産として開発されたスカジャンやハッピーコートの日本での定着と若者文化との関係

スカジャンについては、桐生での複数回の調査、横須賀での調査を遂行することができ、戦後日本で誕生したスカジャンの現在の生産者の状況、消費者（需要）の多様化の様子が明らかとなった。また調査により以下 2 点が判明した。①外国人用お土産に刺繍を施したアイテムという意味では、明治以降に遡る長い歴史があり、スカジャンはそういった歴史的な文脈で考察する必要性がある。②桐生で横振りミシンにより刺繍が施された「authentic」なスカジャンというのが日本でのスカジャンのイメージあるのに対し、世界的には、中国で大量生産されたスカジャンが主流となっていることが明らかになった。2020 年東京オリンピックのオフィシャル・スカジャンだけでなく、2023 年の「ニューヨーク・ファッション・ウィーク」に、北九州市の成人式を彩る派手な「きもの」が登場するなど、メディアでも取り上げられているが、実際、西洋のハイ・ファッションとエンタテインメント業界で注目されており、ファッションが西洋から一方向に、尚且つハイ・ファッションからロー・ファッションへ移動するという考え方に挑戦する「越境的な」アイテムと位置づけ直し、今後も引き続き研究をする必要がある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計28件（うち招待講演　8件／うち国際学会　9件）

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 挿絵解説文の英訳について：解説文にあらわれる身装文化の特徴、及び機械翻訳の試みについて
３．学会等名 服装・身装文化デジタルアーカイブ研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 An Entangled History of Chintz, Batik, Sarasa, Katagami, and “African Prints”
３．学会等名 Images of Drapes/Draped Images: Textiles and Representation in Early Modern Asia and Europe（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 A Global History of “Kimonos” and the Products They Inspired
３．学会等名 The 3rd Conference of the European Association for Asian Art and Archaeology（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 Visual Construction of the Dutch: From the Perspective of the “Tojin”
３．学会等名 Leiden Lecture Series in Japanese Studies（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 Printed Textiles on the Move: A Case Study of Chintz, Batik, Wa-sarasa, and “African Prints”
３．学会等名 East Asian Textiles and Clothing in Motion: Ideas and Identities Across Media and Space in the Long 19th Century（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 「戦前の機械捺染：導入前夜から黄金期まで」
３．学会等名 「明治初期の繊維産業における革新を考える―島田昌和編著『きものとデザイン：つくり手・売り手の150年』（ミネルヴァ書房 2020年）に焦点をあてて」
４．発表年 2022年

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 「江戸時代以降のコンタクト・ゾーンにおける「きもの」文化」
３．学会等名 国際ワークショップ「幕末から明治期の京都の繊維産業を『J-InnovaTech』の観点から考える」
４．発表年 2022年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 A Global History of Textiles
３．学会等名 International Colloquium Global Japan 50 ans（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 On Japanese Textile Designs in the 19th Century
３．学会等名 Workshop on Towards a New Historiography of the 19th-century Japan（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 “Kimonos” and their Inspired Products as Embodiments of Global Entanglement
３．学会等名 The Association for Asian Studies（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 Designs and their Dissemination in Japan and Asia
３．学会等名 Designing Modern Japan: Visualizing the Modern Experience in Japan and Asia（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 Global Entanglement of Textiles: Chintz, Batik, Katagami, and ‘African Prints' on the Move, 1800-2000
３．学会等名 Transoceanic Connectivity as Maritime Landscapes（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 “Kimonos” and their Inspired Products as Embodiments of Global Interconnectivity
３．学会等名 International Workshop: Dutch Textiles in Global History: Interconnections of Trade, Design, and Labour, 1600-2000（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 挿絵解説文の英語化の問題点とその分析
３．学会等名 身装文化デジタルアーカイブ研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Haruko Takahashi, Kozaburo Hachimura, and Keiko Suzuki
２．発表標題 An Image Digital Archive on the Clothing Culture in Japan from 1868 to 1945
３．学会等名 第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 ICOM2019京都におけるCIDOC研究発表報告および今後の課題2
３．学会等名 身装文化デジタルアーカイブ研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 機械捺染とデザインに見る越境性
３．学会等名 経営史学会 第55回全国大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 Aloha Shirts and Sukajan: Their Circulation and Domestication throughout Asia
３．学会等名 国際シンポジウムThe Many Shapes of Meaning: Object and Performance in Asia（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 高橋晴子、津田光弘、八村広三郎、鈴木桂子
２．発表標題 ヴァーチャル・インスティテュートの可能性―身装文化デジタルアーカイブの更なる活用に向けて
３．学会等名 第66回［特別編］ARCセミナー
４．発表年 2020年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 Further Frontiers in Digital Humanities
３．学会等名 New Frontiers in Digital Humanities for Japanese Culture and Arts
４．発表年 2020年

１．発表者名 Henry D. Smith II, and Keiko Suzuki
２．発表標題 Wood Blocks & Paper Stencils: The Hidden Forms of Color Printing in Japan
３．学会等名 KCJS Summer Lecture
４．発表年 2018年

１．発表者名 Keiko Suzuki, and Zengxian Li
２．発表標題 On Digitalization of Textile and Old Books
３．学会等名 Seminar and Workshop at the National Museum of Indonesia（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Lilang Xiong, Zhenao Wei, Wenwen Ouyang, Yulin Cai, Ruck Thawonmas, Keiko Suzuki, and Masaaki Kidachi
２．発表標題 Deep feature extraction based on an L2-constrained combination of center and softmax loss functions for ukiyo-e image recommendation
３．学会等名 DSDAH 2018: The 1st KDD Workshop on Data Science for Digital Art History: tackling big data Challenges, Algorithms, and Systems（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 身装画像データベース<近代日本の身装文化>のためのターミノロジーの英語翻訳
３．学会等名 身装文化デジタルアーカイブ研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 Rethinking Katagami Designs from a Global Perspective
３．学会等名 History & Design Roundtable: Printed Textiles for West Africa. c1860-1980s. Low Countries, Scotland, Switzerland, Japan and their Global Connections（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Keiko Suzuki
２．発表標題 Design Dialogues: Questions on Kosode and Japonse Rok's Commonalities
３．学会等名 Roundtable History & Design Kosode & Banyans: Contested World Views in an Attire c1580-1910（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 インドネシアの世界文化遺産をケーススタディーとしての文化財の可視化とICT時代の文理融合研究
３．学会等名 ICT文理融合可視化小委員会（第２回）
４．発表年 2019年

１．発表者名 鈴木桂子
２．発表標題 機械捺染とデザインに見る越境性
３．学会等名 消費とデザイン研究会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計4件

1．著者名 鈴木桂子（石上阿希　・加茂瑞穂共編）	4．発行年 2022年
2．出版社 臨川書店	5．総ページ数 464
3．書名 『西川祐信『正徳ひな形』―影印・注釈・研究―』	

1．著者名 Keiko Suzuki, and Bergmann, Annegret, eds.	4．発行年 2020年
2．出版社 立命館大学アート・リサーチセンター	5．総ページ数 137
3．書名 Art Research, Special Issue: Collected Papers from the Freie University Berlin-Kobe University-Ritsumeikan University Joint Workshops in 2017 and 2019	

1．著者名 鈴木桂子	4．発行年 2020年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 25
3．書名 「機械捺染とデザインに見る越境性」、『きものとデザイン―つくり手・売り手の一五〇年』（島田昌和編著）	

1．著者名 Miki Sugiura (編者)・Keiko Suzuki, Beverly Lemire, Giorgio Riello at el. (著者)	4．発行年 2019年
2．出版社 法政大学比較経済研究所	5．総ページ数 298
3．書名 Linking Cloth/Clothing Globally, Transformations of Use and Value, c.1700-2000	

〔産業財産権〕

〔その他〕

EHESS（社会科学高等研究院）
https://www.ehess.fr/fr/colloque/colloque-global-japons
国際ワークショップ『幕末から明治期の京都の繊維産業を 「J-InnovaTech」の観点から考える』
https://www.arc.ritsumei.ac.jp/j/report/b1/pc/015686.html
Workshop Dutch Textiles in Global History
https://www.textilelab.net/news/save-the-date-workshop-dutch-textiles-in-global-history/
Dutch Textiles in Global History
https://www.textilelab.net/events/seminar/
ART RESEARCH SPECIAL ISSUE Vol.1
https://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/app/newarc/e/report/books/ar.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
International Workshop: Dutch Textiles in Global History: Interconnections of Trade, Design, and Labour, 1600-2000	2021年～2021年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	社会科学高等研究院・日本研究所			
オランダ	ユトレヒト大学TextileLabプロジェクト			
米国	カルフォルニア大学バークレー校			
インドネシア	インドネシア科学院（LIPI）	インドネシア国立博物館		